

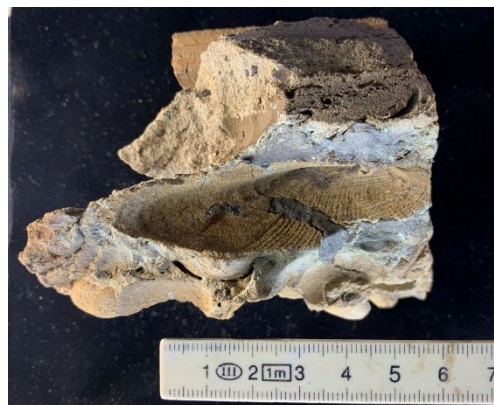
令和8年 9月29日	
資料提供	
県立自然博物館	
担当者	学芸課長 小原
電話	073-483-1777

世界最古級、国内初！ペガサスノツバサの化石

那智勝浦町から、ペガサスノツバサの化石が発見されました。ペガサスノツバサは東南アジアに生息する二枚貝の一種で、現在の日本近海には生息していません。化石の産出記録は少なく、国内では初記録です。ペガサスノツバサの化石としては世界最古級の標本です。

この地域での化石調査では、他にも複数種の南方系の貝類化石が発見されています。これらの化石が含まれていた地層の年代は、世界的に温暖化したと考えられている時期に一致しており、これら南方系の貝類化石群は、当時の紀伊半島南部沿岸の水温が現在よりも高かったことを示しています。

今回、ペガサスノツバサをはじめ、那智勝浦町小麦およびその周辺で発見された貝類化石を展示いたします。



写真：ペガサスノツバサの化石

化石の概要

- | | |
|---------|---|
| 1 名称 | ペガサスノツバサ（学名： <i>Pholas orientalis</i> ）
オオノガイ目 ニオガイ科 |
| 2 産地 | 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町小麦 |
| 3 地層と時代 | 熊野層群三津野層
新生代新第三紀中新世中期（1600万年～1500万年前） |
| 4 発見者 | 左向幸雄（さこう ゆきお） |
| 5 展示期間 | 2026年10月1日（木）～2026年11月29日（日） |
| 6 展示場所 | 県立自然博物館 玄関ホール |
| 7 展示物 | 同じ場所で採集されたペガサスノツバサ含む23種23点の貝類化石 |
| 6 詳細情報 | 別紙参照 |

〒642-0001 和歌山県海南市船尾370-1

和歌山県立自然博物館

TEL:073-483-1777

FAX:073-483-2721

<https://www.shizenhaku.wakayama-c.ed.jp>

mail: postmaster@shizenhaku.wakayama-c.ed.jp



詳細資料

ペガサスノツバサとは

ニオガイ科の二枚貝の一種で、開いた状態の貝殻が翼のように見えることから、この和名が付けられた。ニオガイ科の二枚貝は石や木に穴を掘ってその中で暮らす種が多いが、本種は内湾の泥の中に生息している。現在では国内には生息しておらず、フィリピンやマレーシアなど東南アジアに広く分布し、現地では食用にされている。

本種の化石の記録はほとんどなく、国内では初記録である。また、これまで見つかった本種の化石としては最古級のものである。

これまでの経緯

2015 年 串本町在住の左向幸雄氏と新宮市在住の清水直貴氏が、那智勝浦町小麦～新宮市滝本にかけての地域で化石の調査を開始。

2016 年 3 月 15 日 当館の小原学芸員が調査に参加。この時に左向氏が採取した貝化石密集層の石の中から、ペガサスノツバサの化石が発見される。

2026 年 3 月 25 日 左向氏がこの地域の調査で採取した化石（ペガサスノツバサの化石を含む）約 400 点が当館に寄贈される。

2026 年 9 月 30 日 化石の報告論文（和歌山県立自然博物館報第 44 号）が出版される。

紀伊半島沿岸は熱帯だった？

調査で得られた貝類化石を同定したところ、現在までに 47 種が確認されている。その中にはペガサスノツバサをはじめ、近縁な現生種から推定して南方系だったと見なされる貝類化石が少なからずあり（下表）、当時（1600 万年～1500 万年前）の紀伊半島南部沿岸の海中は現在よりも温暖であったことが推察される。

発見された化石	近縁な現生種とその分布
イソスジサルボウの近縁種	イソスジサルボウ（沖縄以南）
ペガサスノツバサ	ペガサスノツバサ（東南アジア）
ハシナガソデガイ属の一種	ハシナガソデガイ（紀伊半島以南）
ヴァリコスピラ属の一種	カゴメソデガイ（フィリピン以南）
ハイイロボラの近縁種	ハイイロボラ（紀伊半島以南）
サツマツブリ属の一種	サツマツブリ（紀伊半島以南）
ジュズカケイグチの近縁種	ジュズカケイグチ（沖縄以南）